

農村ツーリズム展開方針

令和2年(2020年)6月3日
オホーツク総合振興局

1 地域の現状

○オホーツク総合振興局管内は北海道の北東部にあって、オホーツク海と280kmの海岸線で接しており、総面積は、10,691km²と全道面積の12.8%を占め、岐阜県を上回る広さに約29万人が暮らしている。気候は冬期間の寒さは厳しいものの、比較的穏やかで、年間降水量は800ミリ前後と少なく、北見市などの地域は日照時間にも恵まれている。

○世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」をはじめとした、豊かな自然景観や、1月下旬から3月にかけてオホーツク海を覆う他の地域では見ることのできないオホーツク特有の流水など、豊富な観光資源を有している。

○広大な大地や森林、豊かな漁場を背景に展開される農林水産業は、十勝に次いで道内2位の農業算出額となるなど、道内有数の豊富で良質な農林水産資源を産出しており、地域の重要な基幹産業となっている。

○女満別空港、オホーツク紋別空港の2つの空港が設置され、道央圏や首都圏などへの空の玄関口となっている。広大な地域に都市が散在する圏域には、国道12路線、主要道道20路線等の道路網が形成されており、主要産業である農林水産業や観光産業における人流・物流はその多くが自動車交通に依存している。

2 地域の抱える課題

○現状のオホーツク地域のイメージは、残念ながら「流水」「特急オホーツク」「オホーツク海」など限定的であると考えられ、従来のイメージをよりポジティブに強化し、現状イメージ以外の多彩なオホーツクの魅力を発信していく必要がある。

○観光入込客数・外国人宿泊数は10年前に比べ伸長している(それぞれ9.3%、190.9%)ものの、全道の伸び(同11.4%、326.6%)に比べ緩やかものになっており、世界自然知床をはじめとした雄大な自然や食などの地域資源を道内外に効果的に発信するとともに、オホーツクの強みである豊かな一次産業を活かした体験型・滞在型観光の推進、外国人観光客の受入体制づくりなどの取組を進める必要がある。

○少子高齢化が進み、農林漁業の担い手不足が深刻な課題となる一方で、特に畑作農業、酪農では離農者の農地を残された農家が引き継ぐことによる規模拡大が進み、労働力不足が一層顕著となっている。

○教育旅行については、地域を魅力的に感じ、ファームステイを希望する学校がある一方、生徒を受け入れ、魅力を発信する農林漁家が不足している状況にある。

3 今後の展開方針

○地域の自然や食などの地域資源を道内外に効果的に発信するとともに、オホーツクの強みである豊かな一次産業を活かした体験型・滞在型観光の推進、外国人観光客の受入体制づくりなどの取組を進めていく。

【具体的展開】

- ・農村ツーリズムに取り組む地域が連携して、オホーツクの魅力を発信し、集客力や波及効果を高める。
- ・取り組む地域間の意見・情報交換を通じて、来訪者にとって、より魅力的な体験型事業を実施し、旅行者の長期滞在を推進する。
- ・ガイド人材の発掘・育成や旅行者の受入に協力する農林漁家の拡大を推進する。

以上の取組を推進するため、国の農山漁村振興交付金(農泊推進対策、農山漁村活性化)等の事業制度の周知や関係者の助言・指導に努めるとともに、地域の課題解決のためのセミナーや勉強会など必要な支援を行う。